

この『最難関問題集 国語』は、『予習シリーズ』および『演習問題集』を学習した後、さらに上を目指す人に向けて、思考力や記述力をみがくために作られた問題集です。

●各回の構成

① 出題文章について

『予習シリーズ』よりも難易度の高い文章を出題しています。長い文章であっても、最初から最後まで読み通す力を培うことができます。

② 設問について

記述問題を中心に出题します。書くトレーニングを積み重ねることで、難関校入試で必要とされる記述力を培うことができます。解答に必要な要素を文章中から自分で探し、解答を組み立て、正確に書くというプロセスを確認しましょう。

●効果的な使い方

① たくさん読んで、たくさん書く

国語の力を高めるには、たくさん読んでたくさん書くことが重要です。「時間が無い」という理由で読み飛ばしたり、「わからない」という理由で白紙にしたりしないようにしましょう。

② 解答の根拠をたしかめる

問題を解いたら必ず答え合わせをしましょう。記述問題は、模範解答と同一内容であれば、別の言葉で表現しても間違いはありません。自分の答案に書かれている内容と、模範解答の内容を見くらべ、過不足がないかを確認しましょう。その際、模範解答が本文のどの部分を根拠にしているのかを知ることがとても大切です。

●解答解説と解答题

別冊の解答解説には解答题もついています。字数指定のない記述問題は解答题の大きさを手がかりにして解答题を作りましょう。

目次

第1回	物語・小説(1)	出会いと別れ	4
第2回	物語・小説(2)	個性と葛藤	12
第3回	説明文・論説文(1)	自然と環境	18
第4回	説明文・論説文(2)	科学と文明	23
第5回	総合		27
第6回	随筆文(1)	日本と世界	34
第7回	随筆文(2)	言葉と生活	39
第8回	物語・小説(3)	挫折と再生	45
第9回	総合		50
第10回	随筆文(3)	記憶と人生	60
第11回	物語・小説(4)	家族と友人	65
第12回	説明文・論説文(3)	暮らしとテクノロジー	71
第13回	説明文・論説文(4)	人間と社会	75
第14回	総合		80
第15回	詩・短歌・俳句		88
第16回	説明文・論説文(5)	日本語と私	91
第17回	物語・小説(5)	生と死	95
第18回	総合		99

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

時間というものは、私たちがその中で生きている環境と言ってもいいものです。環境は、いつも変わらず安定していてこそ、その中で安心して生きていけます。ところが今や時間環境が、どんどん速くなっているのです。※ドッグイヤーなんていう言葉もありましたね。日本国民の半数近くが、社会生活のテンポが速すぎると感じています。ヒトという生きものにとって適切な時間環境があるからこそ、そういう感覚をもつのでしょうか。でも、より便利に、より速くと、どんな時間が加速しているのが現状です。これは時間環境が破壊されていると言えるのではないのでしょうか。

今まで、環境問題というと、温暖化や、化学物質による環境汚染が問題にされてきました。時間が環境問題としてとり上げられることはありません。時間は変わらないというのが常識ですから、時間環境という問題の立て方はあり得ないからです。

①ここが盲点ですね。地球温暖化も資源エネルギーの枯渇も、元はといえば、じゃんじゃん石油を燃やして時間を速めているのが原因です。

時間をもう少しゆっくりにして、社会の時間が体の時間と、それほどかけ離れたものではないようにする。そうやって時間環境問題を解決すれば、自動的に温暖化もエネルギー枯渇の問題も、解決してしまいます。

②時間の問題から、エネルギー問題をはじめとする、他の多くの環

③文明の利器を賢く使うにはどうすればよいかを考えたいのです。

私は、速い時間とゆっくりの時間とは、時間の質が違う、そしてその時間の中で経験できることに違いがあり、生きている質そのものにも時間によって違いが生じてくるのだらうと思っています。

ゾウとネズミの話に戻れば、これらでは、エネルギー消費量に一八倍の差があり、だから時間の速さが一八倍も違い、ゾウの時間とネズミの時間とは質が大きく異なっているとされます。そして現実には生き方そのものが違っているのですね。

ちなみに私の研究対象であるナマコの時間は、われわれ哺乳類とは、とんでもなくかけ離れているようです。ナマコは超省エネ生活を送っています。ナマコのエネルギー消費量を測ってみたのですが、体重あたりにして、われわれの五〇分の一しか使っていません。だから私が一時間で使うエネルギーをナマコは二日もかけて使っていることになりました。ナマコの時間は、私のものとは完全に異なるものなんだと、このほとんどが動かずノテツツとしているナマコを眺め続けて、実感しました。

以前、新幹線で事故があって、のろのろとしか列車が動かなかったことがあります。その時の車窓からの景色は、ふだん見慣れたものとは、まったく違って見えたのです。物理的には同じものを見ているはずなのに、列車の速度によって、まったく違う。東海道を足で歩けば、またぜんぜん違ったものに見えることでしょう。時間の速度を変えただけで、同じものが違った様相を呈してくるのです。だから、あえて珍しいものを追いかけてあっちこっちと駆け回らなくてもよいのですね。エネルギーを使ったり使わなかったりして時間の速度を変えれば、同じものでも新たに楽しめる。省エネを手段として、楽しむ世界を広げ

境問題も派生しているのです。だから時間環境は、環境問題の中でもっとも重要なものとして取り扱われるべきものですね。そして、そういう問題があることにすら気づかせない現代の時間観は、非常に問題の多いものだと思います。

エネルギー問題は、どうしても解決しなければならぬ大問題です。でも、将来石油がなくなるから省エネしようと呼びかけても、ほとんど効果はありません。オイルショックの時には、それなりに省エネは実行されたのですが、これは石油の値段が上がったから。子孫のために石油を残そうと禁欲したわけではありません。値段が下がれば元の木阿弥です。私だけが良ければいい。たとえ血のつながった子孫であろうとも自分以外のことは考えず、結局将来のことなど考えないのが現代の個人主義というものです。一度手にした便利さを手放す人など、めったにいません。便利なのは幸福なこと、他人のために自らの幸福を手放すことなどありえないのです。「子孫のために省エネしよう!」というキャンペーンが効果をもつとは思えません。

④発想を変えてみましょう。個人の幸福を手放させるのは無理なので、すから、エネルギーを使えば不幸になると思わせればいいのです。「エネルギーを使えば使うほど、社会と体の時間のギャップは大きくなり、私たちはより不幸になるのだ。だから幸せになりたかったら省エネするしかない!」という言い方ならば、利己的な現代人にも、届きやすいメッセージになると思うのですけれど。

⑤とはいえ、縄文人のくらしに戻れ! などと言うつもりはまったくありません。文明の利器は、じつに便利ですから、これを使わない手はないのですが、速ければ速いほど良い、という考えに警鐘を鳴らし

⑥現代人は機械を使って時間を操作できるようになりました。ということは、いろいろな質の違う時間を意図的に作り出せるということ

⑦す。ここはゆっくりの時間にしよう、ここは速い時間にしようというふうに、⑧時間をデザインすることが可能です。エネルギーを介して時間を操作することで、速いだけの世界より、より豊かな世界が経験できるようになると私は思うのです。

⑨ゆっくりの世界には、速い時には決して味わえないものもあるはずですが、私は若い頃、瀬底島という沖繩の小さな島で研究していました。沖繩の浜を歩いたら、漁師さんが一人、泡盛を飲んでいました。だまって茶碗を差し出してくれます。砂浜にすわって、それをごちそうになる。そして茶碗を返す。何度かそれを繰り返したのですが、漁師さんが、ぼつんとこう言いました。「借金していい船を買えば、儲かるのはわかっている。でも、そんなことをしたら、こうして夜飲む泡盛の味がまずくなる!」

⑩私たちはエネルギーをどんどん使い、あれもこれもと次から次へとやる、それがいい、楽しいことだ、と思い込んでいます。でも、じっくり楽しむには、ゆるやかな時間が必要なのではないでしょうか。また、ゆったりボートとしている時間が間に入るからこそ、その前にやったことを反芻して楽しみをより深く味わい、また次にやることへの期待がふくらんで、実際に行くことが、さらに楽しいものになると思

⑪うのですね。そして、ここが一番大切なことだと思うのですが、じっくりと時間をかけてつきあったものこそが、自分にとってかけがえのない大切な

ものになっていく——これは私の実感です。機械を使ってお手軽にすばやく済ませたものなど、結局は上っ面をなただけのこと。あらすじだけ聞いて読んだ気になっている本みたいなものかもしれません。こういうやり方ばかりに慣れ親しんでいけば、真の楽しみも得られな

100

いし、自然や他人や、そして人生との付き合い方も、深みのないものになってしまっているのではないのでしょうか。
時間環境という形で、時間を環境問題と結びつけてお話ししました。本章を終るにあたり、一言付け加えておきましょう。環境問題こそ二一世紀に解決しなければならぬ大問題なのですが、その割には私たち一人ひとりが、これを身近なものとしてとらえているのかというと、じつにこころもとないですね。

105

こうなるにも西洋近代というのが影響していると私は思っています。明治以来、日本人には確固たる個人という意識がない、個人を確立しなくてはいけない、と言われ続けてきました。おかげで私たちは、個を大切にしようになったのですが、その結果、まわりのことなどおいて、まず私を最優先する利己主義礼賛の世の中になってしまいました。昔だったら「減私奉公」や「無私の精神」のスローガンをかかげて、自分は少々不便になっても、環境というおおやけのもののために奉仕しようと言えたのですが、今はとてもそうは言えません。省エネと言ったって便利さを犠牲にすることはせずに、新しい技術で解決しようします。車に乗らないという選択肢はなく、エ

110

コカーに乗り換えるのが環境にやさしくすることなのです。自分の便利さを手放すなんてことは考えません。利己主義こそ絶対です。

115

生物学者としてはここで、今の利己主義の己、つまり私って何なのだ？ ということを、改めて考えてみたいですね。この体をもった

120

自分自身を大切にしないことですよ。

だからこそ安易に環境を変えるわけにはいかないし、環境を汚染するなどもってのほかでしょう。こんなふうには環境問題とは自分自身の問題なのだと考えれば、解決がずいぶん楽になると思います。

150

子供も孫も私です。そして、今、申しましたように環境も私。今の日本人は、自分のこの体が占めている空間と、この体の一生という時間、それ以外は私ではないととらえています。だからこそ、環境のことも、私の死後のことも、私とは関係ないと、思い込みやすいのです。このへんで私の見方を変えて、もう少し広く私をとらえることが、環境問題の解決には必要だと思っています。

155

※ ドッグイヤー……情報産業における変化のスピードが速いことをいう語。

(本川達雄「生物学的文明論」(新潮社、より)

問一 —— 線①「ここが盲点なのです」とありますが、これはどのようなことをいっているか、わかりやすく説明しなさい。

問二 —— 線②「時間の問題から、エネルギー問題をはじめとする、他の多くの環境問題も派生しているのです」とありますが、筆者の考えている「他の多くの環境問題」の根本の原因とは具体的にどのようなことですか。文章中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

私だけが私なんではないか？ 前章で、子供という私を作り、次に孫という私を作り、私、私、私と渡していくのが生物であり、この個体が減んでも、次世代という形で、ずっと私が永続するのだと申しました。この個体だけが私というわけではありません。時間的に個体を超えた広がりをもったものが私なのです。

125

さらに、私というものは、空間的にも個体を超えて広がったものだと思うのですね。生物は環境に適応するように進化してきました。ある環境中には、その環境に適応した生物が棲んでいます。別の環境には別の生物がいます。ある生物が生きている環境は、その生物にとつてかけがえのないものであり、その環境がなくなれば、その生物も生存できなくなります。環境と生物とは一体です。

130

それほど環境が大切なものだとすれば、環境も「私」の一部だと言ってもいいのではないのでしょうか。

135

環境には土地や大気や温度などの物理的なものもありますし、私のパートナーやペットや草花といった生物もあります。日々つきあっているそれらも、私というものを作り上げており、決して、この一つの肉体をもった個体だけで、私ができているわけではないでしょう。パートナーを失うと、自分の半身を失ったような喪失感があると、よく言われます。パートナーが私の一部だからこそ、そう感じるのでしょう。

140

だから筆者は、自分のパートナーも子供も、そしていつも使っている机も枕もわが家も、わが家の前の道路も、近所さんも、角の公園も、そして日本も地球も、「私」の一部だと思っています。もちろん、道路や近所の皆さんの「私度」は下がりますが、でもそれもみな、私をかたち作っているものであり、それを大切にしないということは、

145

問三 —— 線③「文明の利器を賢く使うにはどうすればよいか」とありますが、「移動」ということに関していえば、どうすることによってどういふよさが生まれると筆者は考えていますか。文章中の言葉を使って五十文字以内で答えなさい。

問四 —— 線④「時間をデザインする」とは、どうすることだと筆者は考えていますか。文章中の言葉を使って三十五文字以内で答えなさい。

問五 —— 線⑤「ゆっくりの世界」とありますが、これは要するにどんな環境のことで、そこで人は何をすることができると述べられていますか。文章中の言葉を使って九十文字以内で説明しなさい。

問六 —— 線⑥「環境問題は、エネルギー問題をはじめとする、他の多くの環境問題も派生しているのです」とありますが、筆者の考えている「他の多くの環境問題」の根本の原因とは具体的にどのようなことですか。文章中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問七 —— 線⑦「環境問題は、エネルギー問題をはじめとする、他の多くの環境問題も派生しているのです」とありますが、筆者の考えている「他の多くの環境問題」の根本の原因とは具体的にどのようなことですか。文章中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。